

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要がまとまりましたので、お知らせします。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 上記(1)(2)の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の実施と内容

- (1) 調査実施日
令和3年5月27日(木)
- (2) 調査対象校・対象学年・対象児童生徒数
小学校108校 第6学年児童 7,567名、中学校54校 第3学年生徒 7,038名
- (3) 調査内容
 - ア 教科に関する調査(小学校-国語・算数、中学校-国語・数学)
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に係る内容
 - ③上記の①と②を一体的に問う問題
 - イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ①児童生徒に対する調査(小学校・中学校共に69項目)
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査
 - ②学校に対する調査(小学校・中学校共に91項目)
指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備等の状況に関する調査

3 調査結果概要について

(1) 教科に関する調査結果

ア 全国、千葉県、指定都市の平均正答率(%)と千葉市全体の結果(別添概要のp.1)

小学校 第6学年	国語	算数
	平均正答率(%)	平均正答率(%)
千葉市	65	71
全国	65	70
千葉県	65	70
指定都市	65	71
全国との比較	0	+1
中学校 第3学年	国語	数学
	平均正答率(%)	平均正答率(%)
千葉市	66	58
全国	65	57
千葉県	65	56
指定都市	65	58
全国との比較	+1	+1

※指定都市の値は公表された各指定都市平均正答率の平均値

イ 本市の調査結果に見られる特徴

① 平均正答率より

- ・全国の平均正答率と比較して、本市の小学生は、国語は全国と同等で、算数は1ポイント上回っている。中学生は、国語、数学共に1ポイント上回っている。
- ・千葉県の平均正答率と比較すると、本市の小学生は、国語は県と同等で、算数は1ポイント上回っている。中学生は、国語は1ポイント、数学は2ポイント上回っている。

② 正答数の分布（別添概要のp. 2～p. 3）

- ・小学校国語、算数・数学いずれの教科においても、全国とほぼ同等の分布を示している。

(2) 児童生徒に対する質問紙の調査結果（別添概要のp. 9～p. 18）

ア 「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」

児童→80.2%（全国80.3%より0.1ポイント低い）

生徒→65.4%（全国68.6%より3.2ポイント低い）

イ 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う、どちらかといえば役に立つと思う」

児童→94.4%（全国94.5%より0.1ポイント低い）

生徒→93.0%（全国93.2%より0.2ポイント低い）

ウ 「5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う、どちらかといえばそう思う」

児童→76.5%（全国78.2%より1.7ポイント低い）

生徒→78.0%（全国81.0%より3.0ポイント低い）

エ 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をする」

児童→31.4%（全国26.9%より4.5ポイント高い）「全くしない」は3.9%（0.4ポイント高い）

生徒→49.4%（全国41.8%より7.6ポイント高い）「全くしない」は3.3%（0.2ポイント低い）

オ 「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえば参加している」

児童→50.1%（全国58.1%より8.0ポイント低い）

生徒→35.4%（全国43.7%より8.3ポイント低い）

4 別添概要に公表されている図表一覧

(1) 問題別平均正答率一覧(%) [全国・千葉県・指定都市・千葉市] <平成25～令和3年度>

(2) 正答数分布 [全国・千葉市] <令和3年度>

(3) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表<令和元年度と令和3年度の比較>

※令和2年度未実施

(4) 平均正答率の顕著な向上が見られた学校の取組事例<経年推移の比較から>

(5) 児童生徒質問紙調査より [千葉市・全国] <令和3年度>

[自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識]

- ・自分には、よいところがあると思うか
- ・将来の夢や目標を持っているか
- ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか

[ICT機器の活用に関する意識]

- ・5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか
- ・学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用したか
- ・学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか

[主体的・対話的で深い学びに関する意識]

- ・5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか
- ・5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思うか
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか（小学校） 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか（中学校）

[家庭での学習に関する意識]

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしているか
- ・学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか
- ・学校の授業時間以外に、1日当たりどのくらいの時間、読書をするか

[地域・社会との関わりに関する意識や外国に対する関心]

- ・今住んでいる地域の行事に参加しているか
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか
- ・これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があったか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）

[休校中の学習および生活に関する意識]

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じたか
- ・新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか
- ・新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていたか

5 今後の取り組み

- (1) 児童生徒の確かな学力の定着を図るため、授業改善を推進する。そのために以下のような取り組みを行う。
 - ア 市内全小・中学校において、全国及び千葉県学力状況調査の結果等をもとに自校の学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けた学力向上アクションプランの見直しを行う。アクションプランは全職員で共有し、検証と改善を重ねながら実践に取り組み、各学校で重点テーマを設定するなどして、次年度以降の学力の向上に生かす。
 - イ 各教科の改善策や指導のポイントを示した「全国学力・学習状況調査の結果概要と指導改善に向けたポイント」を作成し、各学校に配付して、校内研究での活用を図る。
 - ウ 資質・能力の三つの柱に基づいた学習評価を的確に行い、指導改善に繋がられるよう学習評価に関する資料を作成、提示し、各学校で活用できるようにする。
 - エ 教科指導における、1人1台タブレットPCを中心としたICTの効果的な活用の促進を図るために、教職員の研修の充実等を図る。
- (2) 「教育だよりちば」やWebサイト等を通して、家庭学習の大切さや家庭での児童生徒の望ましい生活習慣の在り方、スマートフォン等の正しい活用方法等、また、長期休業や万一の休校期間に備えての家庭内の役割分担やルール確認等について、広く保護者に発信する。
- (3) 教育委員会関係各課と連携し、児童生徒の自己肯定感を育む要素として、コロナ禍においても「どのように工夫したら児童生徒の諸活動（学習活動、学校行事、部活動等）が安全かつ効果的に実施できるか」という視点に立って学校に助言していく。
- (4) 児童生徒が、これまで以上に各教科や領域において、地域の様子を調べたり、地域の方々と関わったりする学習を進めるよう学校に助言する。

6 公表日及び公表方法

- (1) 公表日
令和3年12月17日（金）
- (2) 公表方法
市ホームページ
【URL】 <https://www.city.chiba.jp/kyoiku/gakkokyoiku/kyoikushido/26gakuryokutyousa.html>